

第 1 ・ 2 ・ 4 ・ 5 ・ 6 学年 体育科学習指導案

指導者 前田 大地

- 1 日 時 令和 6 年 6 月 13 日（木） 5 校時（13：45～14：30）
2 場 所 体育館
3 単 元 名 目指せ！風の子隊【走・跳の運動（遊び）】
4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子どもの実態	児童（1年生男子1名、女子2名 2年生男子1名、女子2名 4年生女子2名 5年生男子1名 6年生男子1名）は、体を動かすことを好み、全校で仲良く遊んでいる。6年生を中心に下級生のことをよく見て、みんなが楽しめるように考えながら遊ぶことができる。 ○ 体育の様子や学校生活の状況から、運動経験や運動能力の差は大きい。特に、跳躍系の種目が苦手な児童もあり、前向きに取り組めるように工夫する必要がある。（知識及び技能） ○ 前向きに取り組むことはできるが、どのようにアドバイスすればよいか言語化するのが苦手な児童が多い。また、高学年や低学年関係なく互いに意見を出し合える環境を整える必要がある。（思考力、判断力、表現力等） ○ どの活動でも意欲的に取り組んでおり、きまりを守りながら、誰とでも楽しく運動や遊びをする態度は育っている。しかし、日常的に運動する機会が少なく、高学年が低学年に合わせることが多く、動きや遊びの種類が限られており、様々な動きを経験させる必要がある。（学びに向かう力、人間性等）	教材の特性	走・跳の運動遊びは、走る・跳ぶなどについて、友達と競い合う楽しさや、調子よく走ったり、跳んだりする心地よさを味わうことができる教材である。また、体を巧みに操作しながら走る、跳ぶなどの様々な動きを身に付けることも含んでいる教材である。 今回扱う単元は、走・跳の運動を複合的に組み合わせたものである。また、幅跳びやハードル走に繋がられるように意識しながら、難易度を児童が自分で選べるように場の設定をしている。 より良い活動の方向を「かぜのこたい」として、それぞれの項目を達成したか振り返り、次時への意欲付けとしたい。 そして、3つのグループに分けた。それによりグループ内で互いの練習を見合ったり、動画を撮影したりして、アドバイスをする必要性が生じる環境とした。個人の向上と各グループの工夫を促せるようにしたい。
--------	--	-------	--

(3) 単元計画

ア 単元目標

- 走・跳の運動遊びの楽しさに触れ、障害物を調子よく走り越えたり、短い助走から踏み切って跳んだりすることができるようにする。（知識及び技能）
○ 自分の能力に適した課題を見付け、活動の仕方を工夫したり、友達の動きを見て、考えたことを伝えたりすることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
○ 運動に進んで取り組み、きまりを守って誰とでも仲よく運動したり、場や用具などの安全に気を付けたりして活動できるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年 〈走・跳の運動遊び〉	中学年 〈走・跳の運動〉	高学年 〈陸上運動〉
知識及び技能	○ 走ったり跳んだりする動き方を理解することができる。 ○ 低い障害物を走り越えることができる。 ○ 前方や上方に跳んだり、連続して跳んだりすることができる。	○ 走・跳の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を理解できる。 ○ 短い助走から踏み切って飛ぶことができる。 ○ 低い障害物を調子よく走り越えることができる。	○ 陸上運動の楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解できる。 ○ リズミカルな助走から踏み切って跳ぶことができる。 ○ 障害物をリズミカルに走り越えることができる。
思考力 判断力 表現力等	○ 走ったり跳んだりする遊び方を工夫することができる。 ○ 考えたことを実際にやって見せたり、言葉で伝えたりすることができる。	○ 自己の能力に適した課題を見付け、活動の仕方を工夫することができる。 ○ 課題解決のために考えたことを友達に伝えることができる。	○ 自己の能力に適した課題の解決の仕方を工夫することができる。 ○ 課題解決のために考えたことを友達に伝えることができる。
学びに向かう力 人間性等	○ 走・跳の運動遊びに進んで取り組むことができる。 ○ 順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動することができる。 ○ 安全に気を付けて運動することができる。	○ 走・跳の運動に進んで取り組むことができる。 ○ きまりを守り誰とでも仲よく活動できる。 ○ 器具等の安全に気を付けて運動することができる。	○ 運動に積極的に取り組むことができる。 ○ 約束を守り、助け合って運動をしたり、友達の考えや取り組みを認めたりすることができる。 ○ 場や用具の安全に気を配ることができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像（ゴールイメージ）及び教師の願い

仲間とともに高め合って活動する愛顔あふれる子ども

仲間とのつながりを感じながら、体を動かす楽しさを味わわせたい。また、走・跳の運動遊びを多様に楽しむことを通して、自分や友達の考えに触れ、自己の能力を高める学びとしたい。

ア 研究の視点及び手立て				イ 評価規準				
「教材とつながる」		「仲間とつながる」		「自分とつながる」		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 発達段階に応じて難易度が調整できるように場を設定し、子どもが何度でも取り組めるようにする。また、子どもが意欲的に運動に取り組むことができるよう個人の記録の成長を重視する。		② グループごとに運動に取り組む時間を設け、互いの動きを確認したり、仲間と力を合わせたりするなど場面の設定をする。その際、互いを認め合い高め合えるよう、励まし言葉やスポーツオノマトペを活用させる。		③ 自分の成長を実感し、前向きに運動に親しもうとする子どもを育てるために、自分や友達の動きを動画で確認し、成果や課題を伝え合わせる。また、子どもたちの思いを実現する学習の締めくくりを工夫する。		ア 調子よく最後まで走ることができる。 イ 自分に合ったリズムで障害物を走り越えることができる。 ウ 短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶことができる。	ア 自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぼうとしている。 イ 工夫して運動に取り組もうとしている。 ウ 友達のよい動きや変化を見付け、伝えている。	ア 運動遊びに進んで取り組もうとしている。 イ きまりを守り誰とでも仲よく運動をしている。 ウ 用具の準備や片付けを友達と一緒にしている。 エ 互いの動きを見合ったり、友達の考えを認めようとしたりしている。 オ 場や用具の安全に気を配っている。
ウ 単元における指導と評価の計画								
時		1	2（本時）	3	4	5（本時）	6	7
学 習 の 流 れ		走の運動のコースを確認しよう。 ○ それぞれのコースを確認してどのような動きが必要か考える。【視点①】	リズムよく走ろう。 ○ グループごとに練習をしながら、互いの動きを見て、感じたことを伝え合う。【視点②】	自分に合ったレベルにチャレンジしよう。 ○ ポイントを確認しながら自分に合ったレベルに挑戦させる。【視点②】	跳の運動のコースを確認しよう。 ○ それぞれのコースを確認してどのような動きが必要か考える。【視点①】	思い切り踏み切って跳ぼう。 ○ グループごとに練習しながら、互いの動きを見て、感じたことを伝え合う。【視点②】	今までの自分を超えよう。 ○ ポイントを確認しながら自分に合ったレベルに挑戦させる。【視点②】	今まで練習してきたことをみんなに見せよう。 ○ これまでの動きをふり返り、自分の成長を実感させる。【視点③】
	主な評価	知 思 態	ア（様態）	ウ（映像） イ（様態） イ（様態）	ア（映像） イ（様態） ウ（様態）	イ（様態）	ア（ワークシート） オ（様態）	ア（様態） ア（様態） ア（様態）

(1) 目 標

- 運動のポイントを自分たちで見付け、よりよい動きを追求することができる。
(思考力、判断力、表現力等)

(2) 準備物

- 教 師 コーン、ケンステップ、マーカー、踏み切り板、ミニハードル、ハードル、ラダー
セーフティマット、ロイター板、ポール、ゴム紐
- 子ども 学習用端末 ワークシート

(3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1・2学年		
ア 手でのタッチやバトンの受渡しをしたり、低い障害物を用いてのリレー遊びをしたりできる。 イ 助走を付けて片足で踏み切り、前方や上方に跳んだり、片足や両足で連続して跳んだりすることができる。	ア 走の運動遊びや跳の運動遊びの簡単な遊び方を選ぼうとしている。 イ 友達のよい動きを見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えようとしている。	ア 運動遊びに進んで取り組もうとしている。 イ 順番やきまりを守り、誰とでも仲よくできる。 ウ 使用する用具の準備や片付けを、友達と一緒にしようとしている。 エ 場の安全に気を付けようとしている。
第4学年		
ア 調子よく最後まで走ることができる。 イ 自己に合ったリズムで走り越えることができる。 ウ 短い助走から強く踏み切って遠くへ跳ぶことができる。 エ 短い助走から強く踏み切って高く跳ぶことができる。	ア 自己の課題を見付け、その課題の解決のための活動を選ぼうとしている。 イ 競争の仕方を考え、規則や記録への挑戦の仕方を選ぼうとしている。 ウ 友達のよい動きや変化を見付けたり、考えたりしたことを友達に伝えている。	ア 運動に進んで取り組もうとしている。 イ きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合っている。 ウ 使用する用具の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。 エ 友達の意見を認めようとしている。 オ 危険物を取り除くとともに、用具の安全を確かめようとしている。
第5・6学年		
ア 一定の距離を全力で走ることができる。 イ リズミカルに走り越えることができる。 ウ リズミカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。 エ リズミカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができる。	ア 課題に応じた練習の場や段階を選ぼうとしている。 イ 自己の能力に適したルールや記録への挑戦の仕方を選ぼうとしている。 ウ 自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを他者に伝えようとしている。	ア 運動に積極的に取り組もうとしている。 イ 約束を守り、仲間と助け合おうとしている。 ウ 分担された役割を果たそうとしている。 エ 仲間の考えや取組を認めようとしている。 オ 危険物を取り除いたり、場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ろうとしている。

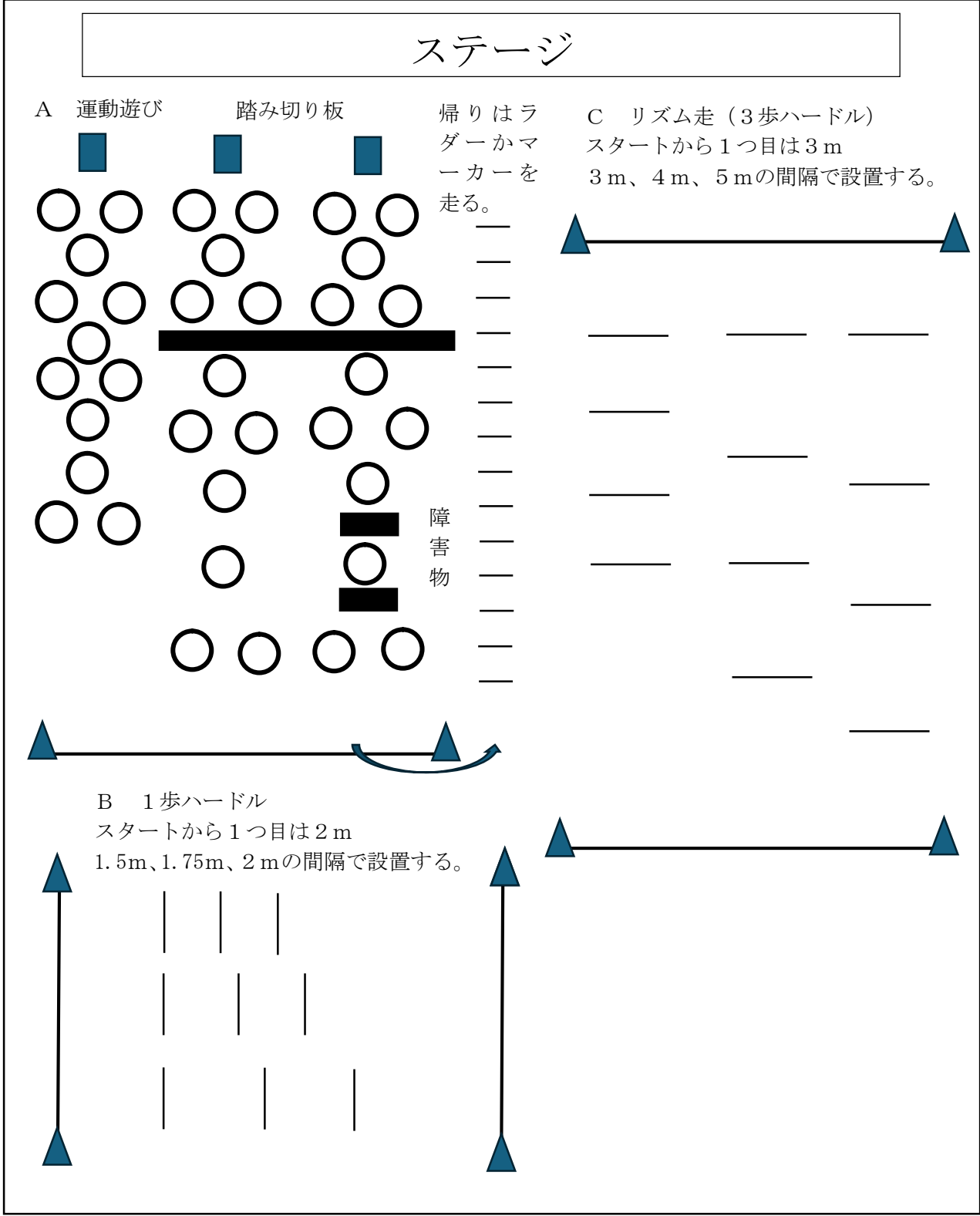
(4) 展 開

学習活動	教師の働き掛け ・子どもの意識の流れ	☐ 指導上の留意点 ☒ 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 ☒ 評価規準（方法）【観点】
1 準備運動をする。 ・柔軟体操 ・ゴム跳び ・体幹	しっかりと体をほぐそう ・今日は、じょうずになりたい。 ・今日は、速く走れるようにしたい。 ・どうやったらじょうずにできるかな。	☒ 運動技能や発達段階に応じてゴムの高さを変え、進んで運動に取り組むことができるように配慮する。
2 個人のめあての確認をする。	リズムよく走ろう 自分のめあてを確認しよう ・リズムよく走れるようになりたいな。 ・うまくできなかった運動ができるようになりたいな。 ・難しい運動に挑戦したいな。	☐ 本時の個人目標を確認させる。
3 グループに分かれて練習し、改善点等を話し合う。 ・練習（する） ・カメラマン（みる） ・アドバイザー（支える）	3つのコースに分かれて練習しよう ・1回は跳べるけど続けては難しいな。 ・跳ぶたびに足が変わってしまうな。 ・遠くに跳ぶ方がいいのかな。 ・トントンのリズムがいいんじゃないかな。 ・ドーンって力いっぱい跳んだらいいよ。 ・同じリズムでトントンっていくといいよ。 ・スピードを落とさないようにしよう。	☒ 系統性を意識した走の練習の場を設定し、子どもの運動技能に合わせて練習に取り組むことができるようにする。 ☐ 「する・みる・支える」の役割を分担し、子どもたち自身で互いの運動を撮影したものを基に、運動のポイントや成長を伝え合わせる。 ☒ 自己の課題解決に向けて、運動の場を選ぶことができる。また、友達の動きを見て、運動のポイントや感じたことや考えたことを伝えている。（様態）【思・判・表】
4 活動を振り返るとともに次時のめあてを決める。	今日の活動を振り返り、次時のめあてを決めよう ・できなかった運動ができるようになった。 ・次はもう一つ難しいところに挑戦しよう。 ・もっと上手になりたいな。 ・友達の動きをまねしたいな。	☐ 自分やグループでの活動を振り返り、次時のめあてを決めさせる。 ☐ 本時の活動を通して、見つけた運動のポイントや友達のよいところを言語化し、掲示させる。

(5) 本時の研究の視点

- 運動能力差に関係なく、どの子どもも意欲的に運動に取り組むことができているか。
【教材とつながる】
- スポーツオノマトペを活用し、ポイントを簡潔に説明することで、互いに認め合い高め合うことができるか。
【仲間とつながる】
- ICTを活用し、自分の動きを確認することで、自分の成長を実感し、前向きに運動に取り組もうとする姿が見られたか。
【自分とつながる】

(6) 場の設定（体育館）走の運動



跳の運動

